

第5期中間財務諸表

- ・ 中間貸借対照表
- ・ 中間損益計算書
- ・ 中間株主資本等変動計算書
- ・ 中間財務諸表作成のための
基本となる重要な事項
- ・ 中間財務諸表に係る注記事項

2 【中間財務諸表等】
 (1) 【中間財務諸表】
 【中間貸借対照表】

(単位：百万円)

当中間会計期間
 (平成21年9月30日)

| | |
|---------------|---------|
| 資産の部 | |
| 流動資産 | |
| 現金及び預金 | 2,647 |
| 高速道路事業営業未収入金 | 13,623 |
| 未収入金 | 1,188 |
| 未収還付法人税等 | 24 |
| 未収消費税等 | 220 |
| 有価証券 | 19,300 |
| 仕掛道路資産 | 157,107 |
| 貯蔵品 | 130 |
| 受託業務前払金 | 14,012 |
| 前払費用 | 150 |
| 繰延税金資産 | 92 |
| その他 | 386 |
| 貸倒引当金 | 11 |
| 流動資産合計 | 208,872 |
| 固定資産 | |
| 高速道路事業固定資産 | |
| 有形固定資産 | |
| 建物 | 957 |
| 減価償却累計額 | 168 |
| 建物(純額) | 789 |
| 構築物 | 15,752 |
| 減価償却累計額 | 3,086 |
| 構築物(純額) | 12,665 |
| 機械及び装置 | 34,630 |
| 減価償却累計額 | 11,507 |
| 機械及び装置(純額) | 23,123 |
| 車両運搬具 | 550 |
| 減価償却累計額 | 420 |
| 車両運搬具(純額) | 129 |
| 工具、器具及び備品 | 295 |
| 減価償却累計額 | 203 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 92 |
| 建設仮勘定 | 1,855 |
| 有形固定資産合計 | 38,655 |
| 無形固定資産 | |
| ソフトウェア | 276 |
| その他 | 21 |
| 無形固定資産合計 | 297 |
| 高速道路事業固定資産合計 | 38,953 |
| 関連事業固定資産 | |
| 有形固定資産 | |
| 建物 | 103 |
| 減価償却累計額 | 91 |
| 建物(純額) | 12 |
| 構築物 | 14 |
| 減価償却累計額 | 4 |
| 構築物(純額) | 10 |
| 車両運搬具 | 1 |
| 減価償却累計額 | 1 |
| 車両運搬具(純額) | 0 |
| 工具、器具及び備品 | 6 |
| 減価償却累計額 | 6 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 0 |
| 土地 | 1,276 |
| 建設仮勘定 | 15 |
| 有形固定資産合計 | 1,315 |
| 関連事業固定資産合計 | 1,315 |
| 各事業共用固定資産 | |
| 有形固定資産 | |
| 建物 | 3,438 |
| 減価償却累計額 | 584 |
| 建物(純額) | 2,854 |
| 構築物 | 59 |
| 減価償却累計額 | 18 |
| 構築物(純額) | 40 |

3

(単位：百万円)

当中間会計期間
(平成21年9月30日)

| | | |
|-----------------|---------|---|
| 車両運搬具 | 11 | |
| 減価償却累計額 | 8 | |
| 車両運搬具(純額) | 2 | |
| 工具、器具及び備品 | 226 | |
| 減価償却累計額 | 54 | |
| 工具、器具及び備品(純額) | 171 | |
| 土地 | 2,995 | |
| 建設仮勘定 | 366 | |
| 有形固定資産合計 | 6,432 | |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 1,296 | |
| その他 | 0 | |
| 無形固定資産合計 | 1,296 | |
| 各事業共用固定資産合計 | 7,728 | |
| その他の固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 858 | |
| 有形固定資産合計 | 858 | |
| その他の固定資産合計 | 858 | |
| 投資その他の資産 | | |
| その他の投資等 | 984 | |
| 貸倒引当金 | 110 | |
| 投資その他の資産合計 | 874 | |
| 固定資産合計 | 49,730 | |
| 資産合計 | 258,602 | 1 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 高速道路事業営業未払金 | 13,804 | |
| 1年以内返済予定長期借入金 | 4,983 | |
| 未払金 | 2,256 | |
| 未払費用 | 715 | |
| 未払法人税等 | 90 | |
| 受託業務前受金 | 14,622 | |
| 前受金 | 834 | |
| 預り金 | 869 | |
| 賞与引当金 | 878 | |
| 回数券払戻引当金 | 552 | |
| その他 | 37 | |
| 流動負債合計 | 39,645 | |
| 固定負債 | | |
| 道路建設関係社債 | 66,797 | 1 |
| 道路建設関係長期借入金 | 102,411 | |
| その他の長期借入金 | 6,400 | |
| 繰延税金負債 | 108 | |
| 受入保証金 | 38 | |
| 退職給付引当金 | 16,834 | |
| 役員退職慰労引当金 | 42 | |
| ETCマイレージサービス引当金 | 752 | |
| その他 | 442 | |
| 固定負債合計 | 193,828 | |
| 負債合計 | 233,473 | |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 10,000 | |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 10,000 | |
| 資本剰余金合計 | 10,000 | |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 固定資産圧縮特別勘定積立金 | 158 | |
| 高速道路事業別途積立金 | 7,791 | |
| 関連事業別途積立金 | 3 | |
| 繰越利益剰余金 | 2,824 | |
| 利益剰余金合計 | 5,128 | |
| 株主資本合計 | 25,128 | |
| 純資産合計 | 25,128 | |
| 負債・純資産合計 | 258,602 | |

【中間損益計算書】

(単位：百万円)

当中間会計期間

(自 平成21年 4月 1日
至 平成21年 9月30日)

| | | | |
|---------------|--------|---|---|
| 高速道路事業営業損益 | | | |
| 営業収益 | | | |
| 料金収入 | 77,374 | | |
| 道路資産完成高 | 2,589 | | |
| その他の売上高 | 2,276 | | |
| 営業収益合計 | 82,240 | | |
| 営業費用 | | | |
| 道路資産賃借料 | 63,657 | | |
| 道路資産完成原価 | 2,589 | | |
| 管理費用 | 19,357 | | |
| 営業費用合計 | 85,604 | | |
| 高速道路事業営業損失() | 3,363 | | |
| 関連事業営業損益 | | | |
| 営業収益 | | | |
| 受託業務収入 | 4,620 | | |
| 駐車場事業収入 | 253 | | |
| 休憩所等事業収入 | 40 | | |
| その他営業事業収入 | 236 | | |
| 営業収益合計 | 5,150 | | |
| 営業費用 | | | |
| 受託業務事業費 | 4,549 | | |
| 駐車場事業費 | 86 | | |
| 休憩所等事業費 | 53 | | |
| その他営業事業費 | 207 | | |
| 営業費用合計 | 4,897 | | |
| 関連事業営業利益 | 253 | | |
| 全事業営業損失() | 3,110 | | |
| 営業外収益 | 344 | 1 | |
| 営業外費用 | 93 | 2 | |
| 経常損失 | 2,859 | | |
| 特別利益 | 121 | 3 | |
| 特別損失 | 210 | 4 | 5 |
| 税引前中間純損失() | 2,947 | | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 9 | | |
| 過年度法人税等 | 58 | | |
| 法人税等調整額 | 92 | | |
| 法人税等合計 | 24 | | |
| 中間純損失() | 2,923 | | |

【中間株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

| | 当中間会計期間 (自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日) |
|---------------|---|
| 株主資本 | |
| 資本金 | |
| 前期末残高 | 10,000 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 10,000 |
| 資本剰余金 | |
| 資本準備金 | |
| 前期末残高 | 10,000 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 10,000 |
| 利益剰余金 | |
| その他利益剰余金 | |
| 固定資産圧縮特別勘定積立金 | |
| 前期末残高 | 158 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 158 |
| 高速道路事業別途積立金 | |
| 前期末残高 | 4,758 |
| 当中間期変動額 | |
| 別途積立金の積立 | 3,033 |
| 当中間期変動額合計 | 3,033 |
| 当中間期末残高 | 7,791 |
| 関連事業別途積立金 | |
| 前期末残高 | 3 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 3 |
| 繰越利益剰余金 | |
| 前期末残高 | 3,132 |
| 当中間期変動額 | |
| 別途積立金の積立 | 3,033 |
| 中間純損失() | 2,923 |
| 当中間期変動額合計 | 5,956 |
| 当中間期末残高 | 2,824 |
| 利益剰余金合計 | |
| 前期末残高 | 8,052 |
| 当中間期変動額 | |
| 別途積立金の積立 | - |
| 中間純損失() | 2,923 |
| 当中間期変動額合計 | 2,923 |
| 当中間期末残高 | 5,128 |
| 株主資本合計 | |
| 前期末残高 | 28,052 |
| 当中間期変動額 | |
| 中間純損失() | 2,923 |
| 当中間期変動額合計 | 2,923 |
| 当中間期末残高 | 25,128 |
| 純資産合計 | |
| 前期末残高 | 28,052 |
| 当中間期変動額 | |
| 中間純損失() | 2,923 |
| 当中間期変動額合計 | 2,923 |
| 当中間期末残高 | 25,128 |

【中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

| | |
|--|---|
| 当中間会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日) | |
| 1 | 有価証券の評価基準及び評価方法 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法によっております。 その他有価証券 (時価のないもの) 移動平均法による原価法によっております。 |
| 2 | たな卸資産の評価基準及び評価方法 評価基準は主として原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。 (1)仕掛道路資産 個別法を採用しております。 なお、仕掛道路資産の取得原価は、建設価額に用地取得に係る費用その他の附帯費用を加算した価額に労務費・人件費等のうち道路建設に要した費用として区分された費用の額及び除却工事費用等資産の取得に要した費用の額を加えた額としております。 また、仕掛道路資産の建設に充当した借入資金の利息で、当該資産の工事完了の日までに発生したものは建設価額に算入しております。 (2)貯蔵品 主として個別法を採用しております。 |
| 3 | 固定資産の減価償却方法 (1)有形固定資産 定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 構築物 5～60年 機械及び装置 5～17年 また、阪神高速道路公団から承継した資産については、上記耐用年数を基にした中古資産の耐用年数によっております。 (2)無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。 |

当中間会計期間
(自 平成21年4月 1日
至 平成21年9月30日)

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率に基づき、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上しております。

(3) 回数券払戻引当金

回数通行券の廃止に伴う払戻に備えるため、販売実績、使用実績及び払戻実績等に基づいて算出した発生見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

なお、過去勤務債務は、その発生時に一括費用処理することとしており、数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生年度の翌期から費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく中間会計期間末要支給額を計上しております。

(6) ETCマイレージサービス引当金

ETCマイレージサービス制度による高速道路通行料金割引に備えるため、マイレージポイント発生見込額を計上しております。

当中間会計期間
(自 平成21年4月 1日
至 平成21年9月30日)

- 5 重要な収益及び費用の計上基準
完成工事高及び完成工事原価の計上基準
道路資産完成高
工事完成基準を適用しております。

受託業務収入

当中間会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(会計方針の変更)

受託事業収入の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を当中間会計期間より適用し、当中間会計期間の期首に存在する工事契約を含むすべての工事契約において当中間会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これにより、営業収益は4,426百万円増加し、営業損失、経常損失及び税引前中間純損失は、それぞれ133百万円減少しております。

- 6 その他中間財務諸表作成のための重要な事項
消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(中間損益計算書関係)

当中間会計期間
(自 平成21年4月1日
至 平成21年9月30日)

| | |
|--------------|--------|
| 1 営業外収益の主要項目 | |
| 受取配当金 | 107百万円 |
| 有価証券利息 | 13百万円 |
| 受取利息 | 3百万円 |
| 土地物件貸付料 | 23百万円 |
| 原因者負担収入 | 7百万円 |
| 寄付金収入 | 141百万円 |
| 違約金収入 | 22百万円 |

| | |
|--------------|-------|
| 2 営業外費用の主要項目 | |
| 支払利息 | 88百万円 |
| 偽造ハイウェイカード損失 | 1百万円 |

| | |
|-------------|--------|
| 3 特別利益の主要項目 | |
| 固定資産売却益(土地) | 0百万円 |
| 回数券払戻引当金戻入額 | 121百万円 |

| | |
|--------------|--------|
| 4 特別損失の主要項目 | |
| 固定資産売却損(土地) | 79百万円 |
| 固定資産除却費(建物等) | 13百万円 |
| 減損損失 | 116百万円 |

5 減損損失

当中間会計期間において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

| 用途 | 種類 | 場所 | 計上額 |
|-------|-----------|-------------|--------|
| 休憩所施設 | 建物 | 大阪市 西淀川区 | 111百万円 |
| | 構築物 | | 1百万円 |
| | 工具、器具及び備品 | | 4百万円 |
| (合計) | | | 116百万円 |

(資産のグルーピング)

資産のグルーピングは管理会計上の区分を基礎として以下のよう

に決定しております。
高速道路事業に使用している固定資産は、すべての資産が一体となってキャッシュ・フローを生成していることから、全体を一つの資産グループとしております。

以外の事業用固定資産については、原則として事業管理単位毎としております。

それ以外の固定資産については、原則として個別の資産毎としております。

(減損損失を認識するに至った経緯)

休憩所別の営業損益が継続してマイナスとなった休憩所施設につき、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

(回収可能価額の算定方法)

使用価値をもって回収可能価額を測定しております。なお、減損対象となった資産については、いずれも将来キャッシュ・フローの見積額がマイナスであるため、使用価値は零と評価しております。

| | |
|-----------|----------|
| 6 減価償却実施額 | |
| 有形固定資産 | 2,886百万円 |
| 無形固定資産 | 512百万円 |

(中間株主資本等変動計算書関係)
当中間会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項
該当事項はありません。

(リース取引関係)

| 当中間会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日) | | | |
|--|----------------------|-------------------------|------------------------|
| 1 ファイナンス・リース取引 (借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 | | | |
| 所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。 | | | |
| リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び中間期末残高相当額 | | | |
| | 取得価額 相当額 (百万円) | 減価償却 累計額相当額 (百万円) | 中間期末残高 相当額 (百万円) |
| 各事業共用 工具、器具及び備品 | 24 | 18 | 6 |
| 各事業共用 ソフトウェア | 22 | 17 | 5 |
| 合計 | 47 | 35 | 11 |
| 未経過リース料中間期末残高相当額 | | | |
| 1年以内 | | 16百万円 | |
| 1年超 | | - | |
| 合計 | | 16百万円 | |
| 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 | | | |
| 支払リース料 | | 9百万円 | |
| 減価償却費相当額 | | 5百万円 | |
| 支払利息相当額 | | 2百万円 | |
| 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 | | | |
| 減価償却費相当額の算定方法 | | | |
| リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 | | | |
| 利息相当額の算定方法 | | | |
| リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については利息法によっております。 | | | |

(リース取引関係)

| 当中間会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日) | |
|--|--------------|
| 2 オペレーティング・リース取引 | |
| オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 | |
| 道路資産の未経過リース料 | |
| 1年以内 | 136,400百万円 |
| 1年超 | 8,300,055百万円 |
| 合計 | 8,436,455百万円 |

(注) 1. 道路資産の未経過リース料の金額は変動する場合があります。当社及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構は、道路資産の貸付料を含む協定について、おおむね5年ごとに検討を加え、必要がある場合には、相互にその変更を申し出ることができるとされており、ただし、道路資産の貸付料を含む協定が独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法第17条に規定する基準に適合しなくなった場合等、業務等の適正かつ円滑な実施に重大な支障が生ずるおそれがある場合には、上記の年限に関わらず、相互にその変更を申し出ることができるとされており、

2. 道路資産の貸付料は、実績料金収入が、計画料金収入に計画料金収入の変動率に相当する金額を加えた金額(加算基準額)を超えた場合、当該超過額(実績料金収入-加算基準額)が加算されることになっております。また、実績料金収入が、計画料金収入から計画料金収入の変動率に相当する金額を減じた金額(減算基準額)に足りない場合、当該不足額(減算基準額-実績料金収入)が減算されることとなっております。

(有価証券関係)

当中間会計期間末 (平成21年9月30日)

子会社及び関連会社株式で時価のあるものは、ありません。

(1株当たり情報)

| 当中間会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日) | |
|--|-----------|
| 1株当たり純資産額 | 1,256.44円 |
| 1株当たり中間純損失金額 | 146.16円 |

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純損失金額については潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり中間純損失金額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

| 項目 | 当中間会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日) |
|-----------------------|--|
| 中間純損失() (百万円) | 2,923 |
| 普通株主に帰属しない金額 (百万円) | - |
| 普通株式に係る中間純損失() (百万円) | 2,923 |
| 普通株式の期中平均株式数 (千株) | 20,000 |

(重要な後発事象)

当中間会計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

該当事項はありません。